

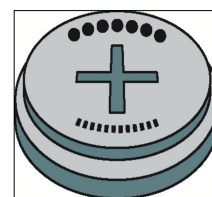
幼い子どもの誤飲事故！

幼い子どもの誤飲事故があとを絶ちません。生後6か月くらいになると身近にあるものを何でも口に運ぶようになり、2歳くらいになると手が届かない場所に置かれた物でも、椅子などを使って取って口に入れるようになります。口に入れたものによっては、健康被害を起こし手術や入院が必要になるケースもあります。

今回は特に注意が必要なボタン電池、タバコ及び医薬品の場合を見てみましょう。

【ボタン電池】

子どもがボタン電池を誤飲すると、気管が塞がれ窒息する恐れや粘膜などに接触して化学やけどを起こす危険があります。ボタン電池が粘膜に貼りつく、電気分解によってたんぱく質を溶かすアルカリ性の液体を出し、食道の内壁や胃壁を短時間に傷つけることがあります。ボタン電池の誤飲を防ぐためには、電池ふたが開きにくい製品を選ぶ、電池ふたをテープで固定する、使用済みの電池を速やかに処分するなどの工夫が必要です。



【タバコ】

タバコに含まれるニコチンには強い血管収縮作用があり、子どもがタバコを食べたりすると中毒を起こし死に至ることがあります。タバコの浸出液はニコチンを吸収しやすい状態にあるため、特に注意が必要です。子どもの手の届くところにはタバコや灰皿を置かず、空き缶やペットボトルを灰皿代わり使わないようにしましょう。

【医薬品】

子どもが大人用の医薬品を誤飲し嘔吐や意識障害を起こす事故や、飲みやすい味に調整された子ども向け医薬品を大量に飲んでしまう等の事故が発生しています。医薬品は鍵のかかる戸棚や引き出しなどに収納し、子どもの手の届くところに放置しないように心がけましょう。



イラスト：消費者庁イラスト集より

誤飲してしまった場合は

直ちに医療機関を受診しましょう。子どもが嘔吐したり、意識がはっきりせず、けいれんしていたら、ためらわずに救急車を呼びましょう。

緊急時の主な相談先

小児救急電話相談（19時～翌朝6時対応）#8000（全国共通短縮番号）
 日本中毒情報センター大阪（24時間対応）072-727-2499
 日本中毒情報センターつくば（9時～21時対応）029-852-9999